

北海道医歌人会詠草



看護学校の跡地にて

美唄 吉村 誠治

学校の体育館も失くなりてただ広らなる跡地に立つ
炭礎の歴史と歩みし四十五年看護師育て來し学舎ありき
体育館に学生集ひ様々の行事ありたり憶ひは盡きず
学校の跡地に建てむ碑に刻む言葉を思ひ巡らす
歴史あるこの学舎に育ちたる一一一八名の看護師に幸を

葦

札幌 浜島 泉

葦の穂とヨモギ枯れ花風に搖る我にしなだる様にもなりて
眼が合ひて領き交はす出勤路朝の散歩か初対面の人
腸機能失せて不調となりし人今朝は顔より回復兆す
センセイと才迎へノコト楽シミと諺言のうち聴き取れし言ひ
夕景に沁み入るやうな梵鐘の音色懷かし歩を止めて聞く

俎上遊戯

釧路 児玉 昌彦

脊髄管狭窄症といふ病七十四の我を促へり
足のしびれ間歇性跛行とそろつては今や観念するしかない
神経の難病でないだけまだましな結婚記念日四十二回目
「お前こそがんになるぞ」と呪詛の文受けとりし日を思ひいだせり
連日の死亡廣告亡くなりし人の齡数へ（もうすぐ）（まだまだ）

初春

栗山 高田 剛太

東の空ほんのりと赤くしてやがて明けゆく初日なるかな
手稻山仰ぎて清し元旦の空青々と澄みわたりけり
新春や子らは異国の陽を拝み吾は日本の春を寿ぐ
鷗翔ぶ背に初春の陽を受けて朔風つよき真冬の海を
門松を置けば手上産持てる友ふらり現れ酒宴となりぬ

屋久島

旭川 稲積 文子

屋久杉のコブにて作られし壺ひとつ年を重ねて今深く輝く
南海の白浜に打ち寄せし屑珊瑚喜々とし拾ふ旅の思い出
船内の映画の場面の（嵐）寛寿郎あざやかな刀さばきに時を忘れつ
色々なテープ飛び交ひ奄美大島と別れ惜みて船は離るる
いじめの芽いづこにありや会議する能面の顔々を見比べて居つ

美酒微醉

江別 三宅 浩次

美酒微醉うまい言葉と感心し他人には説き己さておく
その普益軒が説きし美酒微醉言ふは易し行ふは難し
古い友と失敗談を語るとき美人は要らずそこの場所には
美酒を呑み酒は涙か溜息か青春の話は尽きず
宵探し医学医療の論客の友と交はすは愛でし美酒

タートル（亀）

札幌 山口 康徳

登下校その都度水槽みる中三孫娘に亀氣づきしや嬉々と顔出す（乙女と亀
の心あたたまる交流）
勉学の合間に縫ひてギター弾く孫男の気分はまさに羽化登仙
予算など生まむがために削減すあとに生ずる策は如何にや
混乱の世情をよそに秋景色四季の移りを肅々と成す
若き政治家暴虎馮河のおそれあり前後左右をよく見て動けよ

祝典

札幌 小国 孝徳

宮廷を三輪車に乗り廻らせる皇太子ありありとして今日の祝典
御生誕を祝ひて海に向ふ丘に成りしシャンツ工を吾も飛びたり
自らの叫べる声に目覚めたり真夜深々と更けわたる時
五十錢拂ひジャンプに加はりし吾らに疎まし賞金目当てのゴルフ
診療を離れて十年の吾にさへ表彰状を賜はるとは嗚呼

いのちの運

札幌 古屋 統

恵まれて今生きる運あるわれに富の運地位の運既に茫たり
同級生同期生らの欠けて行き生きる運持つは佗しく悲し
七めぐり終へたる我に許されよ今ひと度の干支の巡礼
新たなる日をクリアして睡ること三万と五百を重ねて飽かず
悪路日勝往き来事故無く務め終へ直後に車輪折れし戦慄（二十八年前）